

平成 31 年 1 月 4 日
沖 縄 気 象 台

沖縄周辺海域の 12 月の海面水温が最も高い記録を更新

沖縄周辺海域の海面水温は、平年よりかなり高い状態が続き、特に東シナ海南部及び沖縄の南の海域では、12 月の月平均海面水温の平年差がそれぞれ+1.3 、+1.5 (ともに速報値)となり、海面水温の解析値が存在する 1982 年以降 12 月としては最も高くなりました。

1 . 沖縄周辺海域での 2018 年 12 月の月平均海面水温

沖縄周辺海域の 2018 年 12 月の海面水温は、月を通して平年よりかなり高い状態になりました。特に東シナ海南部(別紙図 1 緑枠)及び沖縄の南の海域(同図青枠)では、2018 年 12 月の月平均海面水温がそれぞれ 22.9 、26.5 (速報値)となり、平年よりそれぞれ 1.3 、1.5 高く、海面水温の解析値の存在する 1982 年以降 12 月としては最も高くなりました(別紙図 2 及び表)。

2 . 海面水温が高くなった要因

2018 年 12 月の上空の偏西風は、日本付近では平年に比べ北を流れ、フィリピン付近～日本の東海上では平年に比べ気圧の高い領域が広がりました。このような大気の流れに伴い、冬型の気圧配置が弱く、北からの寒気の流れ込みが弱くなりました。また、フィリピン付近では積乱雲の発生が少なく、下層は高気圧に覆われやすい状態になりました。このため、12 月上旬を中心に、沖縄付近は南からの暖かく湿った空気が流れ込みやすく、さらに沖縄周辺海域では平年より風が弱かったことにより、海面水温の低下が抑えられました。このため、海面水温が平年よりかなり高い状態となり、月平均で 12 月としては最も高くなりました。

海面水温の最新の状況と見通しは、「海洋の健康診断表 海面水温・海流(沖縄周辺海域)」をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/shindan/f_6/jun_OK/kaiyo_OK.html

問合せ先：沖縄気象台 地球環境・海洋課 担当 佐々木・藤原
電話：098-833-4065 FAX：098-833-4292

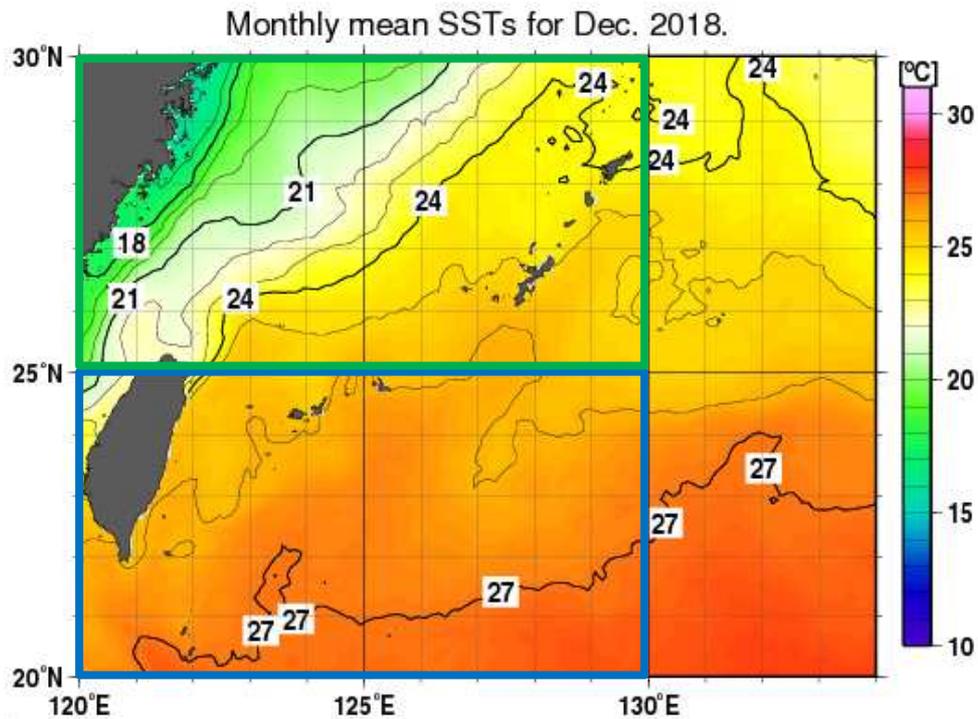


図 1 : 沖縄周辺海域の月平均海面水温分布図(2018 年 12 月) (速報値)

図中の緑枠(北緯 25 ~ 30 度、東経 120 ~ 130 度で囲まれた領域)は「東シナ海南部海域」、青枠(北緯 20 ~ 25 度、東経 120 ~ 130 度で囲まれた領域)は、「沖縄の南の海域」として海面水温を平均する領域を示します。

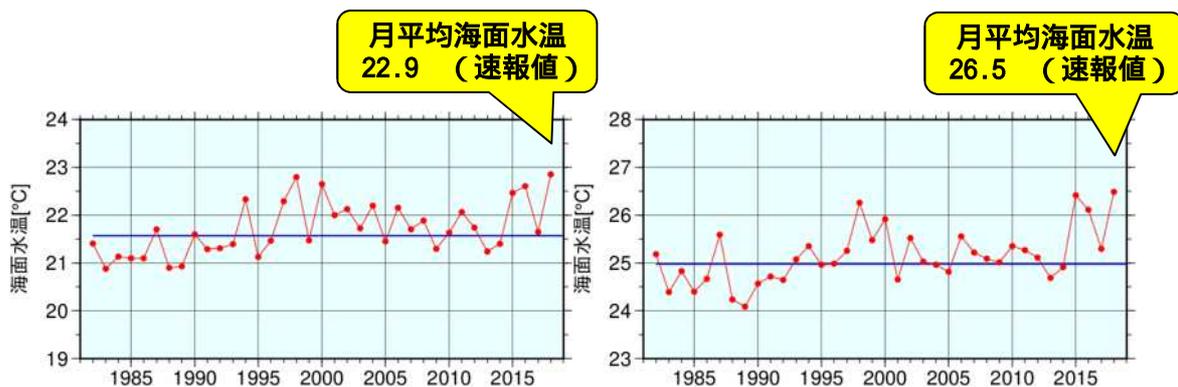


図 2 : 12 月の月平均海面水温の経年変化

(左:東シナ海南部海域、右:沖縄の南の海域)

人工衛星とブイ・船舶による観測値から解析された海面水温。青線は平年値(統計期間:1981 年~2010 年)。2018 年の値は速報値。

東シナ海南部			沖縄の南		
年	平均海面水温 ()	平年差 ()	年	平均海面水温 ()	平年差 ()
2018	22.9	+1.3	2018	26.5	+1.5
1998	22.8	+1.2	2015	26.4	+1.4
2000	22.7	+1.1	1998	26.3	+1.3

表：沖縄周辺海域で12月の月平均海面水温が高かった年（上位順）

2018年の値は速報値。